

徒の育成を目指した。

論文内容の紹介

1 | 研究の進め方

次の三つの手立てを用いて、2学年3学級を5集団に分けた少人数授業に取り組んだ。

(1) 「みどりの学び舎」小中合同研修会

世田谷9年教育の取り組みから、近隣小学校と学び舎を構成している。発表活動の指導過程と小学校での到達目標を明確にするため、外国語指導の在り方を共有し、連携を図った。

(2) 英語研究部での授業公開

即興性を取り入れた教科書本文再現活動を授業公開した。研究協議では「新学習指導要領を踏まえた言語活動」を主題に話し合った。

(3) 地域を生かした教材開発とその活用

ユニバーサルデザインのまちづくりを行っている世田谷区都市整備政策部都市デザイン課に依頼した教材を用いて授業を行った。

2 | 研究の実際

実践(1)では、黒板に貼った前時の教科書本文の絵を指さし、復習を兼ねて内容を説明させ、即興で一言加える活動に取り組ませた。実践(2)では都市デザイン課に、学校周辺のまちづくりの事例を提供していただいた。実践(3)では、生徒は事例とALTに紹介したい場所の原稿と視覚的補助資料を用意した。資料を効果的に用いて分かり易く伝えることを意識させた。実践(4)では、パソコンや書画カメラを活用して発表と質疑応答をした。実践(5)では実践(4)に関連した自身の考えを記述させた(次ページ図)。

3 | 成果と課題

(1) 成果

実践(1)(3)(4)では、即興的なやり取りの機会を確保し、生徒は既習文法で場面・状況・目的に応じて情報発信することができた。実践

奨励賞

地域を活かした言語活動 ～新学習指導要領と 小中連携を踏まえて～

東京都世田谷区立緑丘中学校 英語科代表

黄 例 嘉

実践の概要

既習表現を用いて自分の考えを伝える力や、即興的なやり取りの育成が求められている。また、中学生は地域社会の一員としての役割を自覚して学び、生活する時期に入る。

本研究では教科書のユニバーサルデザインと町紹介の単元を用いた。小中連携の授業実践と行政の協力を得て作成した教材の効果により、言語活動の充実と共生社会への意識をもった生

実践及び期間	内容	
実践 (1) 2019年 11月19日 (火)	世田谷区中学校教育研究会 英語研究部国公立交流会 (授業公開)	Unit5 Universal Design Part 1 教科書本文再現活動 Part 2 教科書本文理解、発音練習
実践 (2) 2019年1月	世田谷区都市整備政策部都市デザイン課にスライド制作を依頼	「学校周辺で見られるユニバーサルデザイン」の事例集(パワーポイント)
実践 (3) 2020年 2月12日 (水)	みどりの学び舎第4回小中合同研修会 (授業公開)	Presentation 2 町紹介 口頭試験 (発表) に向けた練習
実践 (4) 2020年2月末	口頭試験 (発表)	「ALTCに紹介したい世田谷区内の場所と、区内で見られるユニバーサルデザイン」
実践 (5) 2020年 2月25日 (火)	学年末考査 (作文問題)	町紹介とユニバーサルデザインの作文問題、回答集配布



(2) では、共生社会への考えをもつことができた。実践 (5) では、書く力を高められた。

本研究では実社会につながる教材の効果により、生徒の言語活動を充実させ、共生社会への意識を高めることができた。

(2) 課題

今後は総合的な学習の時間と社会科と関連させて地域探索に取り組みたい。また、小学校での課題を踏まえ、中学校での新学習指導要領の完全実施に向けた準備をしていく。

〈参考文献〉

- 『小学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 外国語活動・外国語編』文部科学省、平成30年
- 『中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説

外国語編』文部科学省、平成30年

- 『平成31年度 (令和元年度) 全国学力・学習状況調査 報告書【中学校/英語】』文部科学省、令和元年
- 『NEW HORIZON ENGLISH course 2』東京書籍、平成29年

奨励賞

「見方・考え方」を活用した 特別支援学級の 理科授業実践と評価

北海道釧路市立幣舞中学校

たかはし だん
高橋 弾

実践の概要

中学校の特別支援学級における理科授業を行うにあたり「個別の指導計画」および「自立活動」との関連を考慮した教育課程を作成した。その際、特別支援教育と教科教育との関連を考慮するために「見方・考え方」の一つである「比較」に着目した。この「比較」を軸に教材開発を行うことで、一連の授業を同一の発問 (例: 共通点と相違点を見つけよう) で進めることができ、生徒にとって取り組みやすい授業となったことが推察された。また、自分自身が教材研究をする際も、常に「比較」を発想の軸にすることで、個々の生徒に応じた指導と評価のサイクルを意識することができた。

論文内容の紹介

1 | 実践にあたって

中学校における特別支援学級の教科指導に関しては、特別支援学校教諭免許状を有することなどの法令上の規定が設けられていない。そのため、明確な根拠がないまま「下学年の学習内容を扱うこと」で「指導方法の工夫」としてしまいがしばしば見られるようである。自分自身もまさにそのようになっており、不安を感じつつも、明確な方針が定まらない状況であった。そこで、教科の「見方・考え方」を軸に、個別の指導計画と自立活動との関連を考慮した教育課程を作成し、それに基づいた教材を開発し、実践し、評価することとした。

2 | 実践の内容

本論文で取り上げた教材は「昆虫のからだのつくりを探ろう」の授業における「昆虫の立体切り絵」、および「動物のからだのつくりを探ろう」の授業における「ウチダザリガニ（オスとメス）の解剖実習」である（図参照）。これらの教材を用いた授業では「比較して共通点と相違点に気付く」という展開を基本とし、個々の生徒の特性に応じて三つの段階を設定した。最初の段階は「二つの対象を比較し、相違点に気付くこと」という比較的気付きやすい視点である。次の段階は「二つの対象を比較し、共通点に気付くこと」、最終段階は「二つの対象を比較し、共通点と相違点の双方に気付くこと」と、やや気付きにくいものである。到達させたい段階は、「個別の指導計画」および「自立活動」との関連を考慮し、個々の実態に応じて調整した。

3 | 実践を振り返って

個別の指導計画と自立活動との関連を考慮したことにより、個々の特性を踏まえて個人内評価をすることができた。特別支援学級を担当する以前は「学級全員を同じ方法で評価しなければならない」という思い込みが自分自身にあったために「ワークシートの記入ができない生徒は評価

ができない」と考えていた。しかし、個別の指導計画や自立活動の様子を知ること、「その生徒の得意な方法で評価をし、苦手なところをサポートする指導をしていく」ことの重要性を再認識することができた。



図：昆虫の立体切り絵（左）とウチダザリガニの解剖（右）

〈参考文献〉

今森光彦(2015)「昆虫の立体切り絵」日本ヴォーグ社。

注) ウチダザリガニの解剖は、地元のNPO法人が駆除した個体を譲り受けて実施した。

奨励賞

SDGsを通して社会を、 そして自分自身を見つめる 子どもの育成

京都市立大淀中学校
ようかいちりつこ
八日市 律子

実践の概要

限られた時間内で多角的にSDGsの内容を考えるために、技術・家庭科（家庭分野）の一教

科に留まらず、様々な教科（社会科、理科、技術分野）内容を取り入れた「指導者自作教材（絵本・カード教材）」を製作した。これを活用したことでSDGsへの関心を高め、基礎的な知識の習得と実生活の想定しにくい状況や実生活との繋がりをイメージさせることができた。そしてSDGsの作品（絵本）を生徒が自作する場を設定し、生徒同士や地域の園児への読み聞かせ活動をすることで、伝える喜びを感じ、より深い学びにすることができた。

論文内容の紹介

1 | 研究実践について

(1) SDGsの指導計画と自作教材の活用

①家庭分野のガイダンス

- ・『このバッジ何?』（絵本）
- ・『誰も置き去りにしない』（絵本）

②持続可能な衣生活を目指して

- ・『綿花ちゃんの旅』（絵本）

③持続可能な食生活を目指して

- ・『教えて博士 地球温暖化って何?』（絵本）
- ・『Water大作戦 水恵ちゃんの旅』（絵本）
- ・『がんばる下水道くん』（絵本）
- ・『りっちゃんのエコクッキング』（絵本）

④持続可能な消費生活を目指して

- ・『オイルくんのバトンパス』（絵本）
- ・『コンセントの向こうには』（絵本）
- ・『エネルギーランプ』（カード）
- ・『エネルギー教育4つの視点』（カード）
- ・『エシカル消費って何?』（絵本）
- ・『エシカル消費すごろく』（カード）
- ・『プラスチックは便利だけれど…』（絵本）
- ・『本当においしいチョコレート』（絵本）
- ・『なるほど・ザ・5R』（絵本）
- ・『もったないくんの1日』（絵本）
- ・『省エネ活動の取組方法』（カード）



(2) 「指導者自作絵本」の読み聞かせ活動

「指導者自作絵本」を活用し、生徒同士さらには地域の園児へ読み聞かせ活動をすることで、SDGsの知識・理解を深め、伝える喜びを味わうことができた。

(3) 「生徒自作絵本」の読み聞かせ活動

生徒が自作したSDGsの絵本を活用し、生徒同士や地域の園児へ読み聞かせ活動をすることで、SDGsの知識・理解を深め、伝える喜びをより一層味わうことができた。

2 | 研究の成果と課題

SDGsというと固いイメージがあるが、「指導者自作教材」（絵本・カード教材）に接するにつれ、学びの楽しさを実感し、知識を深めることができた。さらに生徒が自作した絵本を活用することで、園児への語りかけも笑顔も多くなり、結果として生徒の生き生きとした表情が見られた。

また理科・社会・技術分野の年間指導計画において学びの時期を調整し、学習内容を共有し互いに学び合うチャンスともなった。

今後、絵本教材においては、手作りの味を出すため、デジタル化よりも他の学校でも使用できるよう冊数を増やしたい。

また小学校や幼稚園・保育園の発達段階に応じた教材を活用し、生徒が読み聞かせする機会を増やしていきたい。

さらに「なりたい自分」「ありたい社会」実現のために、自分から社会に近づき、考え判断し、実践する態度を養うきっかけとなる教材開発・授業実践を行っていきたい。